



第57回 (社)日本透析医学会 学術集会・総会

The 57th Annual Meeting of the Japanese Society for Dialysis Therapy

O-1425 当院における透析液清浄化と水質管理の現状報告

村山 真大¹, 坂井 翔太¹, 高橋 正樹¹, 長谷部 美美恵¹, 太田 恵¹, 島崎 沙由香¹, 佐藤 典明¹,

遠藤 清文¹, 吉江 祐¹

上尾中央腎クリニック透析技術科¹

【目的】当院で行っている透析液清浄化管理として、エンドトキシン（ET）測定値、生菌培養、透析監視装置各部材の劣化状況を踏まえて現状を報告する。 【方法】透析液供給ラインの洗浄には、過酢酸系除菌洗浄剤Sanacide、塩素系除菌洗浄剤ECO-200を隔日で使用しており、DAB-Eまでの配管にPVDF、透析監視装置DCG-03までの配管にはKCホースを使用している。ROタンク洗浄を月1回ECO-200による消毒運転を行っている。水質管理においてET値測定を週2回、生菌培養測定を隔週にて検査。部材劣化状況は、透析監視装置各選定部材を3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月使用後に分け観察した。 【結果】評価期間内で部材の劣化に大きなものはなく、ET値は検出感度以下、生菌培養検査は低値を維持し、水質管理基準を満たしている。 【考察】結果より、当院の清浄化システム及び水質管理によって、高い水質基準を維持できるといえる。